



# 自治労音協通信

第70号

2010年10月25日発行

発行責任者 会長 磯野 友一  
編集責任者 事務局次長 小川 典子

## 第43回はたらくものの音楽祭IN新潟大成功！

### 『Piano Piano』に北から南から大集合 第2回自治労音協コンサート「まちなかステージ」



滋賀県支部『だんないず』のメンバー



板井悌二新潟県本部委員長  
あいさつ(青年部時代から音協の会員さんです)

4時30分から、山本英二さん桃井雅和事務局長が会場準備を始めた、まちなかステージ「Piano Piano」は人通りがほとんどありません。…で、出演申し込みが桃井事務局長に後半になって殺到し、5時30分からはじまった第2回自治労音協コンサートは滋



茨城から来ました『WEED』



吉川勝(三条市職)+吉田美奈さん  
デュエット

賀の古谷昌代さんの元気な司会進行が進められた。新人が2人参加の自治労滋賀県支部『だんないず』(RG西藤、KYB辻桂子、BG大國勉、VO古谷)の息の合った演奏だ。茨城からやってきた『WEED』は(G山本、Pカッシオン久保田、G菊池、ボーカル鬼沢(紅一点)今回新人の岩浪さん(BGリーダー菊池さんの高校時代の同級生)が加わり年々上達が目立つ仲間たちだ。新潟三条市から来た、おなじみ、ジャスミン?吉川勝さんは吉田美奈さんとジョイントで久しぶりにさ

わやかな歌声を聴かせた。ここで、開会行事! えっ今までののは、リハールじやく?という声もあつたが、前座でもありませんよ! 時間がないので、観客が三々五々やってきていますが、さっさと進行しています。日音協各県支部から、そして音楽祭実行委員のみなさまや元日音協事務局長印牧真一郎さんも聴衆参加で盛り上がってきたくところで、磯野友一自治労音協会長あいさつに続き、自治労新潟県本部執行委員長の、板井悌二さんから「音楽を通してこんなにとくさんの仲間たちと素敵な時間を過」

せて幸せだ」とあいさつがあり、長年会員として自治労音協に会費を払い続けている仲間の本音に参加者一同同感。コンサート2部と銘打って、沖縄から参加の2人組山城G+嘉数BG(那覇市職労)はオリジナルを元氣よく歌う。5・15普天間包囲行動では全国の日音協の仲間たちと、豪雨の中包囲行動参加者を励まし歌い続けたそうである。(日音協機関紙より)



沖縄那覇市職労の山城+嘉数さん(どしゃぶりの5.15普天間包囲行動では大活躍)



### ♪ 事務局からの お知らせ

みなさまからの投稿をお待ちしています！

E-Mail: [jicogawa@jca.apc.or.jp](mailto:jicogawa@jca.apc.or.jp) 住所変更は必ずお知らせください！

『自治労音教ホームページ』 <http://www.jca.apc.or.jp/~jicogawa>

『自治労と音楽のページ』 <http://www33.ocn.ne.jp/~tmatsu>

『日本音楽協議会』 <http://www.yomogi.or.jp/~uncle>

# 自治労コンサート大盛況

栃木からやってきた2人組『スマイリー松本と愉快な仲間たち』の助っ人桃井事務局長B.G.は、松本敏之（日音協事務局長）Gの歌を引き立てるべく、鳴澤ドラマーの思いつきりのいいリードに負けない演奏を展開した。

東京から毎度参加の狭石利美G+啓子V.O.さんは、いつものさわやかな歌声で、「堤が決壊する前に」など、日音協の歌集でおなじみの曲を演奏した。

そして、今回音楽祭成功の立役者、山本英二さん（現在県職労書記長休職専従中）のオリジナルは素晴らしいギター演奏とともに参加者を魅了した。



いつもスマイルの松本日音協事務局長



いつも二人で出演の狭石啓子+利美さん(東京)



オリジナルを発表する実行委員会の山本英二さん

長年の組合活動をものともせず？音楽に対するこれまでの実績を刻み続けている様子が伝わった。なお、山本すいの人さん（二人は青年女性部時代から音楽推進委員会と共に活動してきた）も音楽祭実行員会で活躍でした。

さて、西から来た西藤安彦（滋賀）と東から来た桃井雅和（茨城）のお馴染み、『ウエストビーチ』はテーマと新曲を歌い健在さを見



西から来た西藤安彦(滋賀)と東から来た桃井雅和(茨城)

せた。2人は自治労青年女性中央大交流集会でもお馴染みの、年に数回ジョイントするメンバー。昨年は西藤の結婚式にも駆けつけ、披露宴とその後との祝う会は会員や日音協メンバーの大演奏会になってしまった。こうしたチャンスを生かし、どこでもいつでも演奏するスタイルを積み重ねている2人だ。

そして、毎週日曜日、昭和大桥やすらぎ堤で12時から演奏している、地



Baby★Babaの熱唱(実は山本さんの弟さんです)

元のエンターテナーBaby★Baba（山田芳裕）が赤い上着にサンングラスで会場を盛り上げた。

最後に、保育士3ガールズの「くれっしえんど」は原（長野）高野（新潟）、坂口（東京）の楽しい歌声でコンサートは盛会の中終了した。

いつの間にか会場の周りに人垣ができています。通行人の市民の皆様には大変ご迷惑をおかけして申し訳ありませんでした。

というところで、全国から聞きに来てくれた日音協のみなさん、そして自治労新潟県本部のみなさんありがとうございました。

そして、演奏できなかった会員のみなさま、来年は高松でご出演お願いいたします。なお、コンサートは今年で通算23回となり、来年は24回目となります。

（文責 事務局次長 小川）



観客のみなさん



保育士3ガールズ「くれっしえんど」

♪Yes I do

京都市東山区祇園縄手通末吉東入南側  
井みねビル4F  
TEL 075-531-5737 H・P 090-2040-2074

日音協近畿の井戸久喜さんが ライブパブを始めました。京都にお立ち寄り際にはお越しく下さい。

# 第43回はたらくものの音楽祭アルバム

「くらしにみのりを心に歌を・ときめきの里に歌が舞う」をスローガンに、日本音楽協議会は、第43回はたらくものの音楽祭を、10月9〜10日、「りゅうとびあ新潟市民芸術文化会館劇場」に全国から300人が参加して開催した。

開会で飯島貞親会長は、全国から参加した仲間、「1年間の成果を交流し合う場として音楽祭を成功させよう」とあいさつ。

新潟県実行委員会委員長は江花和郎連合新潟会長は「労働現場で感じる様々な思いを音楽で表現する活動が、すべての人の暮らしに実りをもたらすことを祈念



今村一男さんの指揮でオープニング

する」と述べた。また、民主党・社民党首からのメッセージが寄せられた。オープニングでは、新潟県実行員会メンバーで、今村一男さんの指揮で「ありがとう私の歌」など5曲を合唱した。

音楽祭には、個人・サークルを中心に38団体(別途日音協ソングは8人)が演奏した。自治労音協会員では、日音協沖縄県支部の山城+嘉数、自治労音楽協議会滋賀県支部はオリジナルの新曲「Thank You All」を発表。ウエストピーチは「ウエストピーチの



自作の詩「Thank You All」を歌う古谷さん



ウエストピーチの2人(西藤+桃井)



WEED(左は山本、右は岩浪)



WEED(鬼沢さん)



ブービーバンドの3人

音楽祭2日目には、ブービーバンドが「熱中症 その対策と課題」と題して社会風刺ソングを発表。地元糸魚川市職「ハレーション」、三条市職組織内市議西川てつしさん、『シングルトリオ』の田中路男(群馬)、久保敏孝(東京)、織田和也(東京民間)は息の合ったストーリーで「コント自衛隊2010」を上演した。日音協都支部は狭石利美の新作「うたたね」

テーマ「逢いたいな…」を変わったコスチュームで熱演。WEEDは「Kagayaki」詩・曲||菊池正彦、と新曲「君らしく」詩・曲||岩浪啓一を発表。

(詩||津谷さつき)を合唱で発表。ピアノ伴奏に元会員の森理子さん、坂口美日さんの娘さん坂口珠萌(しゅほ)さんが繊細なフルート伴奏で合唱を引き立てた。最後に、自治労音楽協議会総勢40人で、長野県支部の『真紅』青木3姉妹と、日音協近畿支部『time goes by』のマリン(井上麻理子)も友情参加して、「プレゼント」「SORA」の2曲を合唱で発表した。バンドは「WEED」とピアノ伴奏を松本敏之さんが担当した。

★音楽祭の演奏風景は、日本音楽協議会のホームページで見られます。

<http://www.yomogi.or.jp/~uncle>

# 音楽祭を来年につなげよう！

## 2011年7月23日高松市で開催予定

来年は、香川県高松市での開催だ。香川県の現職会員が現在細川さん1人であるため、今回2人の元会員が再加入した。県議会議員の高田義徳さんと県本部副委員長の三好康夫さんだ。2人は青年女性中央大交流集会で初めてのミュージカル『国境は見えなかった』を上演した時からの仲間だ。高田さんは青年部常任時代10年間文化班と音楽活動家養成講座、そして音楽祭と自治労コンサートを担当してきた。

また、第1回の自治労コンサートを開催したのは、現在高知県で県議会議員をしている



音楽祭PA担当の藤原組



ノーサイドの佐藤、北山

る坂本茂雄（元青年部長）さんだ。徳島の藤岡一雄（本部執行委員長）元青年部長）は音楽活動家養成講座会場のリゾート伊豆（国労研修センター）までPA機材等を車で運んでいただき、また多くの徳島の会員を发掘していただいた。

来年の音楽祭成功に向けて、四国の会員のみなさんのご奮闘を期待する。また、自治労音楽協議会会員は第3回自治労音楽協議会コンサートと音楽祭での自治労仲間の歌の発表、そして音楽祭の成功に向けて全力で頑張る決意を固めよう。

### 第44回はたらくもの音楽祭 ★自治労音楽協議会

#### 発表曲を募集します

楽譜をPDFでメールか郵送でお送りください。

事務局 小川まで

メールアドレス [jicogawa@jca.apc.org](mailto:jicogawa@jca.apc.org)

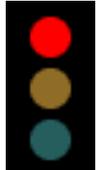
住所は封筒を参照してください。



自治労音協の発表



初出演のハレーション(糸魚川市職)のボーカル高田さん



# 新規会員紹介 みなさまよろしく お願いいたします！

## ★滋賀

2年前、自治労滋賀県支部が  
結成され、昨年からバンドを編  
成し自治労音楽協議会に4人で  
新規加入しました。右から、辻  
桂子（キーボード担当）、真ん  
中は1日遅れて参加の中村隆人  
（ギター担当）、左は大國 勉  
（ベースギター担当）、今回参  
加できませんでした。平尾潤一  
の4人で加入しました。



滋賀県支部の3人

## ★香川

二人とも、青年部時代に音楽  
活動から組合にかかわり、今で  
はどっぷりつかっております。  
高田良徳さんは議員活動で、老  
人ホームの慰問で三味線片手に  
お年寄りとお歌っています。  
三好さんは元スタジオコー  
ディネーターだったとか？



香川で再加入の三好康夫(真ん中)、高田義徳(右端)です

## ★茨城

『WEED』リーダー牛久  
市職労委員長の菊池正彦さ  
んの高校時代の友人です。  
作詞作曲もやりますので、  
今後は日音協のみなさまに  
もたびたびお会いできると  
思います。



茨城WEEDの岩浪啓一です

# 第18回自治労音楽協議会総会報告



総会であいさつする磯野会長

全員に配布される。みなさん  
のご協力をお願いする。

なお、役員選出では、欠員  
の九州ブロックには沖縄の山  
城文雄さん、四国ブロックは総  
会後の選出だが香川の三好康  
夫さんに決まった。

活動報告では、滋賀県支部  
からバンド活動での会員拡大  
の報告、新規会員から自己紹  
介があり、引き続き懇親会で  
会員間の交流を深めた。元J  
P労組の井戸親子、長野県支  
部の青木瀬菜さんと音楽祭ス  
ポットライトでジョイントす  
る坂口珠萌さんなど二世も参  
加。懇親会は音楽談議に花が  
咲いた。



総会風景(新潟県本部青年部のみなさんも傍聴参加)

## 2010年度役員体制

- 会長 磯野 友一(富山)
- 副会長 桑野 功(北海道)
- 同 細川 剛(香川)
- 同 松本 敏之(栃木)

(ブロック選出)  
幹事 榊原 隆子(北海道)

- 同 井加田まり(北信)
- 同 高野 直美(東北)
- 同 鳴澤 庸夫(関東甲)
- 同 中山 順二(東海)
- 同 西藤 安彦(近畿)
- 同 島田万里江(中国)
- 同 前田マユミ(四国)
- 同 山城文雄(九州)\*新

- 事務局次長 桃井 雅和(茨城)
- 事務局次長 小川 典子(東京)
- 事務局次長 狭石 利美(東京)
- 事務局次長 古谷 昌代(滋賀)

## CDの収録曲の音源募集します！

「自治労仲間の歌」入選曲の作者、または自作のオリジナ  
ル曲以外でも作者の了解があればOKです。生テープ、デ  
ジタル音源など何でも、桃井事務局長に郵送してください。

☆音源はこちらまで  
桃井雅和の連絡先  
《住所》〒311-3125 茨城県東茨城郡茨城町下石崎565  
《E-Mail》 momoi@olive.ocn.ne.jp  
※5Mオーバーのでかいファイルの場合は、事前にご相談ください。

# 音楽道

## 「生きるための唄を歌う」タイのフォークグループが来日 反貧困世直し大集會に出演

荒川区職労書記長 白石 孝

タイは政情不安が続く、赤シャツや黄シャツが中心市街地や空港を占拠し、多数の死者も出て、観光にも影響が出ている。読者の皆さんもちよつとマイナスイメージになっているのではないだろうか。

この一連の騒動は、背景に王室、軍、政治家、財界のいろいろな問題が絡み、複雑になっていることがある。ここではこの問題にこれ以上及しないが、基本的には「格差の拡大」「貧困」が最大の要因だ。今や世界はどの国でもこの課題に直面している。新自由主義、新保守主義の人たちの主張や政策が破綻したことを物語っている。



タイのフォークグループ

そのタイでは1970年代の民主化運動から、「生きるための唄」を歌うグループが誕生した。正式には「生きるための芸術」のなかの音楽分野である。その代表格が「カラワン」「カラバオ」だが、メンバーの中にローカルミュージシャンの「キタンチャリー」が存在している。キタンチャリーは、サンスクリット語で「祈りの音楽」を意味し、ソムサクとスリンの夫婦デュオとして、1977年から音楽活動を開始した。音楽活動の拠点は、バンコクからバスで南南東に2時間、ペツブリ県。ペツブリ市は人口3万人の県都だが、お寺が270在り、ラマ4世と5世が別荘を持っていた由緒ある町で、卵やココナッツをベースとしたタイ菓子でも有名だ。

1990年に初来日し、以降1999年までに7、8回来ているが、今回は11年ぶりの来日となった。そして、以前は幼かった長女が24歳になり、14歳の二女と11歳の三女ともども家族5人でやってきた。コンサートは、東京で2回（国立、東久留米）、長野（山ノ内町）で1回、その後関西に移動し、京都、高槻、兵庫県でも演奏した。そして、特別ゲストとして、10月16日（土）に東京明治公園で開催された「反貧困世直し大集會」で4曲披露した。反貧困フェスタは、日弁連会長の宇都宮健児弁護士が代表を務め、湯浅誠さんが事務局長になっている反貧困ネットワークが中心になり、反貧困関係のグループが集まって実行委員会を結成し、開催した。当日は好天にも恵まれ、およそ2千人が来場、全体集會、分科会、テント出展、デモなど多彩な企画で、日本における反貧困運動の今を端的に表すイベントとなった。

歌った曲は、「貧乏人は邪魔者」「希望の星の光」「満月」「花」。花はご存知喜納昌吉の名曲で、タイへはカラワンのスラチャイ・ジャンティマトーンが喜納からプレゼントされて持ち帰り、タイ語の歌詞を作ったところ、大ヒットし、今や「上を向いて歩こう」「昴」と並ぶ日本の歌となった。貧乏人：は、バンコクのスラムの人びとを歌ったもの。

何をしたらって貧乏人は邪魔者扱い／まるでゴミ箱みたい／に扱われ／何の権利もない／生命があつてもただの邪魔者というように差別されている現状を指摘し、でも同じ人間として、学校に行きたい、仕事につきたい、とスラム住民の思いを表現している。まさに「反貧困集會」に連帯したステージとなった。

タイ、フィリピン、韓国などでは、社会運動や労働運動の場面で日常的に歌が歌われている。日本では、同種の集會に歌や芸術が登場することが少ない。アジテーションが上位にあり、芸術や文化は刺身のつま程度にしか考えていない政治家や労組のリーダーが多数を占めているからなのか、私はアジア各地のそういった伝統や習慣の方に親近感を覚える。逆にメジャー展開している日本の芸術・芸能関係者は、自分の出自を隠し自分の意見も言わない「お人形」になっていることも多い。キタンチャリーはマイナーでローカルな音楽ファミリーだが、夫婦から子どもたちに社会を見据える視線が確実に引き継がれている。羨ましく思う。10月14日の来日から、長野でJR特急に乗せて関西にバトンタッチした19日までの6日間、タイ人ミュージシャンたちから様々なことを学んだように思う。

閑話休題。30年来の交流がある「おおたか静流」のコンサートを今年の2月に日暮里サニールで主催したが、その縁から「ホテル・ラングウッド」で彼女の初デザイナーコンサートが実現した。デザイナーの前には、お子さま向けの「歌のお絵かきワークショップ」も組み込んだ、興味深い企画を提案した。11月22日（月）の夜だが、関心のある方は、多少割引きであつせん出来るので、連絡をいただきました。

また、来年の3月4日（金）の夜、ムーブ町屋で、ラオス男性と日本女性の人形遣いユニット「チエオボン」の公演も決定した。パントマイム、ダンス、芝居をベースに椰子の実やほうき、木の実、葉っぱなどの自然の材料を駆使した人形芝居で、2年前の公演も絶賛された。これもお薦めだ。

# 私のギター人生 ギターに魅せられて

狭石 利美(東京)

## 2人目の先生との出会い

延べ半年ほどの入院生活を経て、再びセンターのギター教室に行けるようになった。そんなある日、国労の書記仲間が「貴がギターを習っていて発表会をやるらしいけど、」とチラシをくれた。行ってみると、7、8人生徒が一曲ずつ弾いた後で二人の先生がそれぞれ3曲ほど弾いた。生徒も先生もそのあたりのギター教室の発表会に比べかなりレベルは高かった。後で分かったが、二人の先生は兩人とも日本ギターリスト協会主催の新人賞選考演奏会で入賞していた。そこで習っていた生徒(友達の兄貴)の紹介で私も習うことにした。

その時私が習うことにした先生は確かバツハの「プレリュード・フーガ・アレグロ」とカカロニア民謡の「盗賊の歌」を弾いていた。

辜 硯彦という台湾出身で高校時代は柔道部に所属し、将来は柔道家になろうとしていたらしいが、いつの間にかギター演奏家の道に進んだという一風変わった人物だった。

## 他には他の生き方がある

二ヶ月に一回私の都合のいいときにワンレッスン2000円で教えてもらった。行くと大体1、2時間はレッスンしてくれた。レッスンは終わるとよく食事や飲みに行き、友達感覚で付き合った。まだ若く、私より2、3歳年下だった。

辜(こう)さんと呼んでいたが、音楽的才能は非常に豊かだったので、演奏はスケールが大きかった。ある日彼と話したことがあった。「コウさんはそれだけ才能があるんだから、もっと演奏活動に集中すれば日本でも指折りのギタリストになれるのに、もしかしたらセゴビアみたいになれるかも」「セゴビアはそうしたいと(ギターで生きるという)生きています。私はそうは思わない」二人でこんなやり取りをしたことを覚えている。

自分には商才があると思いついてきたようでもギター界の汚い世界も知り、演奏家として精進するといふよりいろんな商売に手を出し、最後には株で大損をして私のところに借金を申し込んできた。私にも?千円円の住宅ローンがあり、これは返って

きそうもないなと思って断つてから付き合いが途絶えている。

## アンサンブルの歡び

彼に習っていた10歳ほど先輩に知る人ぞ知る松尾さんがいた。(その頃、生徒は私と二人だけだった)このころセンターのギター教室も、教室というよりサークル的な性格に発展していた。サークルの名前はタレガの名曲「ラグリマ」をそっくりいただいた。ラグリマに松尾さん誘い、強力なメンバーの加入によりラグリマの演奏レベルは突然急速に向上した。ラグリマの練習は、そのほとんどが毎回アンサンブルの練習となった。クラシック、ポピュラー、ラテン：とにかく面白そうなアレンジであればなんでもやった。3部から4部の曲が多かったが、その他コンビを決めて二重奏も結構やった。私はよく松尾さんと組んでいろんな曲をやった。アンサンブルも二重奏も、独奏では味わえない楽しさ、喜びがある。合唱と同じなんだろうが、自分を主張しつつお互いの音(声)をよく聴きあい、最終的

にはみんなで気持ちと心をひとつにして音楽を作り上げる。そこに至る過程がまた面白い。一人ひとり個性があり、はじめのうちはなかなか揃わないし曲想もバラバラ。そのうち、しっかりと自己を主張している人の曲想に全体が揃えられていく。同じ箇所(フレーズ)でこの個性と個性がぶつかると、何回やってもバラバラになる。

習にも自然と熱が入ってきた。やる、二重奏は誰々が何の曲をやると、話はだんだん盛り上がってくる。会場はどこにしようか、チラシは誰が：毎回の練習にも自然と熱が入ってきた。

## コンサートをやろう

そのうち働くものの音楽祭にも出演するようになった。ギタアンサンブルなんてそれまでの日音協にはなかったからか、とっても新鮮な目で迎えられた。演奏に対する評価も、新鮮さも手伝ってか概ね好評だった。日音協東京都支部のコンサートにも毎回出演するようにした。ラグリマのレパートリーもだんだん増えてきて、そのうちラグリマの「独自コンサートをやろう」との声が持ち上がった。そうなるのと合奏(アンサンブル)の曲を決める、パートを決める、独奏は各自が得意な曲を

# ペンションあいらんど

## 今年も皆様をお待ちしています!

Tel:0136-23-4322 Fax:0136-23-4323

[island\\_k@f5.dion.ne.jp](mailto:island_k@f5.dion.ne.jp)

[www.niseko.ne.jp/island](http://www.niseko.ne.jp/island)

〒044-0081北海道虻田郡倶知安町ニセコ高原ひらふ163-27



# 自治労音楽協議会2010年度活動方針 (2010年10月8日～2011年7月)

## 1.自治労音楽協議会の組織を確立します。

(1)自治労の組合員で音楽活動をしている人々に、音協加入を積極的に呼びかけます。  
(2)各県、地連ごとの会員、サークル間の連絡をつくりだすとともに、できるところから県支部を結成します。

(3)幹事会を開催します。

(4)次期総会は、2011年7月2～3日の香川県高松市で開催される予定の第44回はたらくものの音楽祭と同時期に開催します。

(5)自治労との組織的な関係の確立を引き続きめざします。

(6)サークル活動の活性化をめざします。このために第3回自治労音協コンサートを開催します。

## 2.自治労の音楽・文化事業に協力します。

自治労の音楽・文化事業は次のようなものが計画されています。

これらに積極的に協力し、会員の参加を呼びかけます。また、さらに音楽・文化事業を拡大するようはたらきかけます。

(1)青年女性地連別交流集会文化班  
(2)労働学校での歌唱指導など

## 3.日音協の活動および事業に協力します。

(1)日音協会員加入(年会費1000円)をすすめます。

また、日音協会員で地域支部に所属できない人たちが構成する、日音協自治労音協支部を結成します。

(2)日音協セミナー

(3)ブロック別日音協合宿

(4)第44回はたらくものの音楽祭(2011年7月予定)

(5)機関紙『音楽運動』のネット会員の拡大

## 4.各地域で独自のコンサートなどを追求します。

当面、滋賀県支部などで開催しているコンサートや、県支部の結成を目指すとともに、ブロック・県単位で自治労音協会員合同のコンサートなどをめざします。

## 5.自治労音協仲間の歌CDを作成し、会員に配布します。



## 「一生懸命なもの」を持つことは大事

柳川 幹司 (自治労東京都本部組織局長)

高校時代、同級生3人でグループを結成しジャンケンで負けた自分がベースを担当し、ガロのコピーやオリジナルを歌い、いろいろなコンサートの場で発表した。卒業と同時に解散したが、地域や他の学校のたぐさんの仲間とも知り合い、今も付き合いが続き大きな財産となっている。今は、二つのバンドで活動している。

一つは、暫くギターから離れていた4年前、母校の中学のサマーフェスティバルで父兄が歌う時に、ギターを伴奏して欲しいと頼まれ、それが先輩おやじの目に留まり、一緒に親父バンドでやらないか?と誘わ

れグループでの活動を始めた。このバンドは、慰問をしたりしていたので、いつかはそうした活動をしたかと思っていた自分の気持ちと合致し、慰問を行なったりして活動している。お年寄りの笑顔をみるたびに元気をもらっている。

一方、2年前に高校時代の仲間と、「年を重ねて若い頃とは違うテイストで、またやってみよう」と、フォークデュオを結成。今は、ライブハウスやイベント、焼鳥屋、おすし屋さんなどから出演依頼もたくさん舞い込むようになり、特に7月、8月は毎週どこかに出演する売れっ子? (笑) になった。

テンポがずれ、音のバランスが狂うと甘い音楽も不快なものになる。これは人の暮らしと同じ。「リズム・メロディー・ハーモニー」の要素は普段の生活でも大切にしたい。一生懸命なものを持っていることは大事。力まなくてもよいから。いくつになっても今が青春。その気持ちで練習に励み活動している。

9月には、仙台ジャズフェスティバルに出演が決まり、知らない土地で知らない人に自分達の歌を聴いてもらえるのか不安もあるが楽しみだ。音楽と場所は、昔の自分を思い出させてくれる。

左/ギターを弾き語りする柳川さん

